

頑張る

農業法人

南丹市日吉町殿田の大向(おむかい)地区で、農家27戸で組織する農事組合法人「大向営農組合」は、2007年4月に日吉町では初めての集落型農業法人として設立された。管理する農地は6・7畝と小規模だが、農業受託、加工、朝市、貸農園と活動は活発で、特に女性たちにより、6次産業化としてすすめられた加工事業は、同組合を支える看板事業となっている。

その2年後に営農組合を立ち上げ、集団転作として1畝で新丹波黒大豆の採種を中心とした栽培や、水稲の農作業受託に取り組んだ。2001年には同地区の女性19人で朝市グループを結成し、地元特産の「壬生菜」や「みず菜」などの新鮮な野菜や米、花きなどの直売を始めた。04年に加工部を立ち上げ、集荷場の一部を改修して調理施設を設置し、郷土食の「納豆もち」や「巻ずし」を「スプリングスひよし」などで販売を始めた。

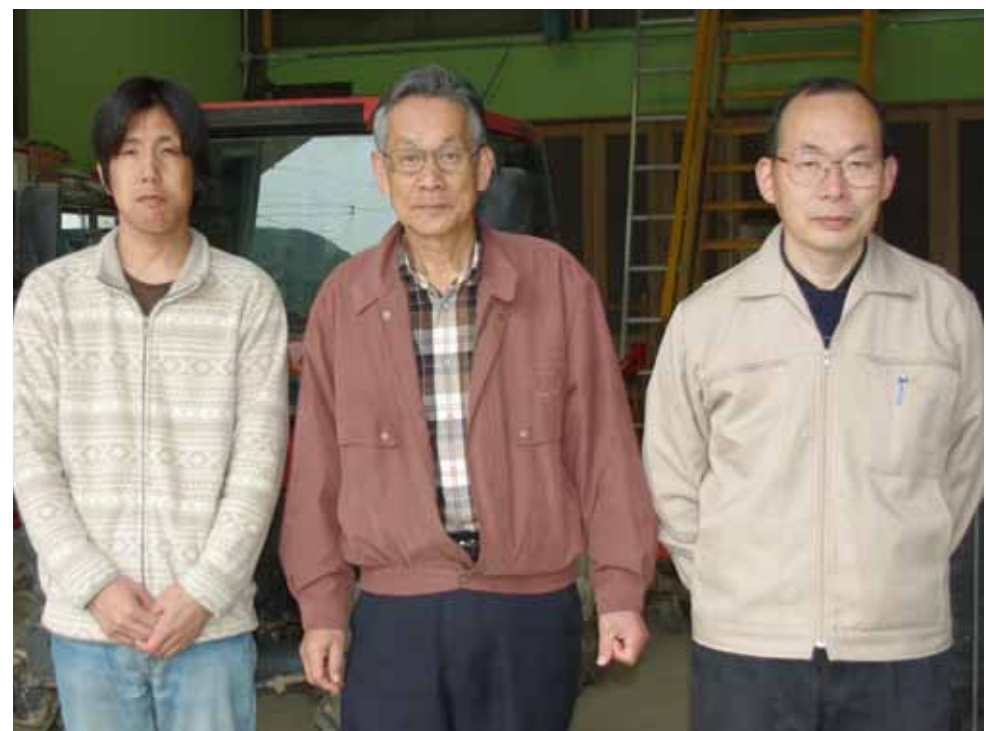
その一方で、同地区の高齢化・後継者不足が進んできたことから、JAや行政の働き掛けで担い手育成や地域農業の持続

日吉ダムにある温泉施設「スプリングスひよし」の玄関口に位置する同地区は、周囲を山に囲まれ、以前は車道がなく、収穫した農作物はリヤカーで運んでいたが、1994年に圃場(ほじょう)整備の完成と合わせて、自

南丹市
日吉町

農事組合法人 大向営農組合

地域活性化に努める平川代表理事(中)や山口卓三理事(右)、オペレーターの井尻健司さん



農地保全など幅広く

女性加工部の活動が看板に

は「納豆もち」、「巻ずし」などの郷土食の味わいが好評で、「スプリングスひよし」ではたちまち売り切れるほどの人気。同市内や近隣からも注文が多く寄せられている。平川さんは「厳しい経営を女性の力で支えている」と、加工部をたたえる。

こうした幅広い地域活性化の取り組みが評価され「11年度豊かなむらづくり全国表彰事業」で近畿農政局長賞を受賞した。

平川さんは「自然と農地とふるさとを守る営農組合なので、継続した取り組みが第一」と話す。さらにJ A京都の協力で今年度から、手間を掛けず効率よく栽培できるヤマブキ栽培に取り組み、事業拡大を図る計画だ。
▽法人所在地 南丹市日吉町殿田大向110の3。電話 0771(72)0607(平川さん方)

を目標して法人化を行った。代表理事の平川正己さん(64)ら理事4人を中心に、38人の組合員により運営が行われている。同組合は、農作業受託や黒大豆栽培の他、都市農村交流を目的とした体験農園を開設する。また、目玉の加工事業で